

「高師浜にミニ砂浜をつくろう会（第5回）」活動の概要

- 日 時 令和5年10月16日（月）13:00～14:30
- 場 所 高石漁港内広場（高石市高師浜）
- 主 催 CIFER・コア（一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア）
- 協力団体 大阪港湾局、高石市、高石市教育委員会、公益財団法人大阪府漁業振興基金栽培事業場、高石市漁業協同組合、NPO法人大阪府海域美化安全協会（順不同）
- 参加者数 104名（高石小学校3年児童 42名、南海愛児園園児 22名）
- 活動内容 13:00 開会挨拶
 - ・矢持 進 CIFER・コア理事
 - ・畑中政昭 高石市長13:05 砂浜の清掃活動
- 13:25 植栽セレモニー（クロマツ3本）
 - ・畑中政昭 高石市長
 - ・山下奉文 大阪港湾局堺泉北建設管理課課長
 - ・高石小学校3年生児童・南海愛児園園児の代表13:35 集合写真
- 13:40 稚魚放流（キジハタ稚魚）
- 14:10 終了

○概 要



CIFER・コア 矢持進 理事の挨拶

近年、大阪湾東部の沿岸部は20～30年前の播磨灘くらいの栄養塩レベルになってきており、全体的に豊かで恵みの多い海になりつつあります。将来的には高師浜の周辺海域も徐々に水がきれいになっていくと考えられます。また、高師浜は由緒ある浜でもあり、市民が楽しめる海を残すためにも今日のような活動を継続していくことが非常に大切です。



畑中政昭 高石市長のご挨拶

高師浜は風光明媚な砂浜で、昔は水泳などに親しまれた場所ですが、臨海工業地帯という経済発展の象徴となるような埋め立てが行われ、現在に至っています。しかし、経済の発展か自然環境の保全かという二律相反したまちづくりではなく、経済が発展しているけれども海や砂浜がきれいだという二律共生し合えるロールモデルを高石市が担っていければと考えています。皆様の知見を頂きながら砂浜を子どもたち、地域の皆様に残す取り組みをしていきたいと思っております。



▲砂浜の清掃活動



▲参加者による集合写真



▲植栽セレモニー（写真右は畑中市長）



▲キシハタの稚魚(300匹)



▲放流についての説明を聞く子供たち



▲稚魚を受け取って浜辺へ



▲子供たちによる稚魚放流の様子



■事務局から

「高石市にミニ砂浜をつくろう会」は、平成 28 年から令和元年まで計 4 回開催してきましたが、その後コロナウイルスの影響により中断していました。今年は高石市、大阪港湾局、大阪府漁業振興基金の皆様のご協力を得て、4 年ぶりに再開することができました。当日は素晴らしい秋空のもと、子どもたちを含め 100 名を超す参加者が集まり、高師浜の砂浜は一気に賑やかになりました。

高石市による事前の草刈りと清掃のために、砂浜はきれいな状態が保たれており、清掃活動では小さなプラスチックゴミの清掃が中心となりました。植栽セレモニーでは、高石市 畑中市長、大阪港湾局堺泉北建設管理課 山下課長、高石小学校児童・南海愛児園園児の代表がクロマツの植樹を行い、これまでの「ミニ砂浜をつくろう会」で植えられたクロマツ 11 本とあわせ、14 本の松並木が完成しました。

稚魚放流では大阪府栽培漁業センターの井坂氏によりキジハタ 300 匹をご用意いただきました。子供たちはキジハタの説明や放流の注意事項を聞いた後、稚魚の入ったパケツを手渡され、水際で歓声を上げながら放流を楽しんでいました。

大阪府海域美化安全協会からは、子どもたちにグッズをご提供いただきました。

イベント後のアンケートには、高石小学校児童のみなさんから次のような感想が寄せられました。

- ◆ 自分が放流した魚が元気に育ってほしいと思います。
- ◆ 次は深海や魚のひみつを勉強したいです。
- ◆ ち魚放流でたくさんの魚のことを知って、いい勉強になりました。
- ◆ ちゃんとできるかドキドキしたけど何回もやっていくうちにどんどんなれてきて楽しかったです。
- ◆ また、ち魚放流をしたいです。魚がすいすい泳いで行ってくれたのでとてもうれしかったです。
- ◆ キジハタはにじいろできれいでした。
- ◆ 魚の名前が知れてとてもうれしかったです。
- ◆ はじめてだったので楽しかったです。ありがとうございました。